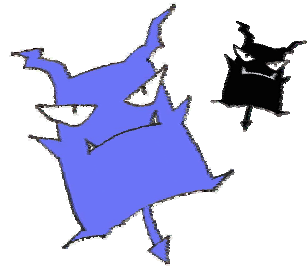


平成20年5月

京都市こどもの感染症

かんせんしょう



★ ☆ これから流行りそうなものは…

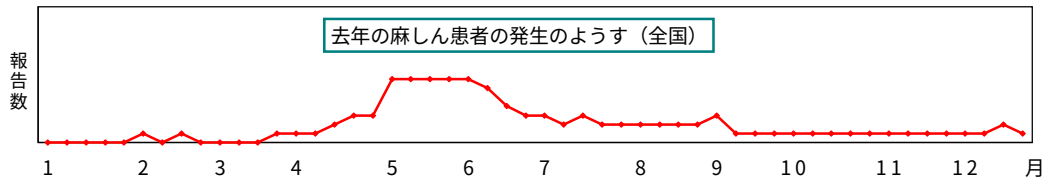
< 去年の今頃(5月)の順位 >

順位	病気の名前	特徴、予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱、下痢、嘔吐などが症状です。ノロウイルスによるものがよく知られていますが、初春の時期には、ロタウイルスによる下痢症も多く、この場合には、白色の下痢便がでます。年齢は乳幼児での感染が中心です。予防は、調理前、食事前、トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので、水分補給をこまめに行いましょう。
2位	水ぼうそう (水痘)	水痘ウイルスが原因で、全身に発しんがでます。感染力が強く、肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。 発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで、症状の軽減が期待できます。予防接種は任意(1歳以上で、1回接種)ですが、集団生活をする場合は、受けておかれることをおすすめします。かかりつけの医療機関にご相談ください。 なお、集団へ感染が広がるのを防止するため、学校保健法による出席停止期間は、すべての発しんが、かさぶたになるまでとなっています。
3位	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	のどの痛みと発熱で始まり、赤い発疹が全身に広がります。3～4日すると、舌がイチゴのように赤くなってぷつぷつになる、いちご舌とよばれる症状が特徴で、4～5歳での感染が多い病気です。

★ ☆ 5月、麻しん(はしか)に注意しましょう！

●●● 麻しんはいつごろ、多いのでしょうか ●●●

麻しんは、春に報告数が増える感染症で、去年の春にも大流行しました。



●●● 麻しんはどのようにして感染するのでしょうか ●●●

麻しん患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれている麻しんウイルスを吸い込むことで感染します。感染してから発熱や咳などの症状が出てくるまでの潜伏期間はおおよそ10～12日です。また、熱が下がってからもしばらくは人にうつしてしまう可能性がありますので、学校へ通っているお子さんなどでは、学校保健法により、解熱後3日を過ぎるまで「出席停止」の措置がとられています。

●●● 治療方法はあるのでしょうか ●●●

麻しんウイルスに対する特効薬はありません。治療は主に、発熱や咳などの症状をやわらげることを目的に行われますが、合併症を起こして重症となることもあり、こどものかかる感染症のなかでは、重いもののひとつです。

●●● どのように予防すればよいのでしょうか ●●●

麻しんにかからないようにするためには、予防接種が最も効果的です。
1歳及び小学校入学前の1年間、この2回の期間中の定期接種は無料で受けることができますので、ご利用ください。
また、今年度(来年3月31日まで)は、中学1年生に相当する年齢(平成7年4月2日から平成8年4月1日生まれ)と、高校3年生に相当する年齢(平成2年4月2日から平成3年4月1日生まれ)の方も、無料で接種を受けることができます。

詳しくは最寄りの保健所又は保健福祉局保健医療課(075-222-3421)にお問い合わせください。

◆ 気になる症状があるときは、かかりつけの医療機関に相談しましょう！